



私が府議会議員になってから力を入れてきた事業のひとつである、国道307号線の城陽市市辺から奈島のバイパスが完成し、令和5年6月より使用が始まりました。朝晩の渋滞は多少生じているそうですが、交通難所が解消され、非常に快適に通過することができるようになり、緊急輸送道路としての役割もようやく果たせます。



京都府HPより



令和3年度 公共事業評価調査より

また、同じく重点課題であった宇治田原山手線は、南地区から町役場までが完成し、6月18日に開通式が行われました。今後、宇治田原工業団地まで全線開通すれば、さらに便利になり町全体の活性化が見込まれます。この、町役場から宇治田原工業団地までの残りの区間に關しては、府としても計画に入っていますが、早急な全線開通を府に要望してまいります。

一方で、新名神高速道路の開通は、令和6年度にずれ込む見通しです。このずれ込みは、近隣市町における経済効果や、物流施設の開発など、沿線への経済波及効果にも大きな影響が出そうです。NEXCO西日本に対しても、府に対しても、これ以上遅れることのないように申し入れを行っていきます。



今年度の委員会が決まりました

常任委員会

■文化生活・教育常任委員会

文化生活部の所管及びそれに関連する事項と府教育委員会の所管及びそれに関連する事項所管しています。

特別委員会

■新技术と社会づくりに関する

特別委員会

AI、IoTなどの先端技術を活用した新産業の創造や京都産業の多様性を生かし、人材確保策をはじめ様々な分野の課題の解決を図るとともに、脱炭素社会の実現に向けた施策について調査し、及び研究する委員会です。

議会運営委員会、

議会運営委員会議会改革検討小委員会および政策調整会議の委員も務めます。

[第16回] 有権者の声 Voice of voters 京田辺市 小林喜代司さん



京田辺市の面積は42.92平方キロメートルです。このような小さな市に、JRと近鉄と合わせて9つの駅があります。「便利でええやん!京田辺」であります。また、これらの駅は、一部を除いて快速や急行が停車して、大阪市の中心から神戸方面へ、また京都市の中心まで直通で行くことができます。また、井手町にはJR奈良線が通っています。

これらの鉄道は、明治時代に、田辺、井手を中心とした方々が集って計画をして、資金を集め鉄道会社を設立して開通してくれました。JR片町線(城河鉄道、明治30年)、JR奈良線(奈良鉄道、明治29年)、近鉄京都線(奈良電鉄、昭和3年開通)。私達の先輩が、100年前に努力してくれた結果、今日があります。

しかし、そのJRの線には、一部に単線区間が残っています。何としても複線化が必要です。また、北陸新幹線の新駅が京田辺市に計画されています。これらのことが全て実現して大きく発展していくためには、地域の実情や現状、見通しをすべて理解され、努力されている北川議員に期待されている声は非常に大きい、と思います。



北川たかし事務所に、お気軽にお立ち寄りください
皆さまのご意見・ご要望など聞かせてください。

北川たかし事務所 Takashi Kitagawa office

〒610-0313 京都府京田辺市三山木中央5丁目1-10 マンション竹長1F
TEL.0774-62-7889 FAX.0774-66-4601

✉ office@kitagawatakashi.net

🌐 http://www.kitagawatakashi.net



北川たかし

府政活動レポート 第17号

2023.08



プロフィール

京田辺市三山木生まれ／奈良育英高校 卒／大阪電気通信大学 工学部 卒／神戸大学大学院 経営学研究科 修了／元(株)富士通神戸エンジニアリング 勤務／元 流通科学大学 非常勤講師 ラグビー部監督／元 関西大学 非常勤講師／(有)竹長 代表取締役／全日本農業 京田辺市支部 委員長／NPO法人 幸せに生きる力を育む研究所理事／京都府議会議員
【資格】教育カウンセラー／産業カウンセラー／米国CTIコーチング(CPCC)／防災士／赤十字救急法救急員 など
【家族】妻、子ども2人 【趣味】スキューバダイビング／ラグビー

発行 北川剛司 〒610-0313 京都府京田辺市三山木中央5丁目1-10 マンション竹長1F TEL.0774-62-7889 FAX.0774-66-4601

Greeting

ごあいさつ



皆さまから多大なるご支援をいただき、府議会議員として3期目を迎えることができました。新しい会派を構成し、第二会派として議会活動を行っております。会派の方針は「府民の皆さんのがんばりを傾け、政治家目線ではなく府民目線で、批判ではなく、しっかりと政策提言するスタイルで新しい京都をつくる」です。今期は、会派を代表し、多くの役割を拝命しました。所属する委員会などは最終ページに記載しておりますが、特に「決算特別委員会」では、2022年度の京都府予算が適切に執行されているのかをチェックし、かつ次年度の予算編成を行う際の提言を行いたいと思っています。

新型コロナウイルスの流行中に、教育現場も大きく変化が進んだと感じます。学校と家庭とのやり取りにも、ICT



活用が進みました。授業でもタブレットやパソコンを活用し始めていますが、思考力を身につけることに役立っているか、自分の考えと他の人の考えを比較し、良いところは合わせて発展させる力が育っているか、様々な角度からの検証も必要になってくると思います。府外への視察もできるようになりましたので、うまく運用されている学校へ視察に出向き、府政へ提言していきたいと思っています。

新型コロナウイルスは、5月8日から5類に移行され、まだ終息はしていませんが、日常生活が戻りつつあると感じます。一方で、電気代高騰や物価高による消費の落ち込みなど、経済面はこれからが正念場です。

地域において取り組むべき課題もたくさんあります。それぞれの課題に対して、より具体的に取り組みが進むように、皆さんの意見も伺いながら、京都府に対して意見を伝え、提案できるように全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

京田辺市、井手町、宇治田原町を笑顔でイキイキと暮らせる地域にするために「革新」と「挑戦」で取り組みます。

京都府議会議員 北川剛司

議会報告

2023年6月 一般質問 要旨まとめ



全ての質問、答弁は、ホームページに掲載します。
一般質問の様子は、インターネット中継をご覧いただけます。

1 京都府スマート社会推進計画について

質問 北川 (1)現行計画の期間は、今年度が最終年度となる中、今後も府民がデジタル化の恩恵を受けるためには、同計画を改定し、政策を展開する必要があると考えるが、改定の方向性をどのように考えているのか。

(2)京都府スマート社会推進計画では、全ての府民がデジタル化の恩恵を受けられるよう政策を展開するとされている一方、昨年4月に公表された「これまでの実施状況」では、実証実験等の目的達成のための手段は記載されているものの、目的達成に向けた分析の記載がないが、これまでの取組の成果をどのように捉え、昨年度以降、どのような政策を展開してきたのか。また、本計画によって府民はどのようなデジタル化の恩恵を受けることができるのか。

回答 知事 京都府スマート社会推進計画の改定の方向性については、令和2年3月に策定した現行の「京都府スマート社会推進計画」では、スマート社会を支える土台として、デジタル分野の「人材育成」と、サイバー攻撃に備える「セキュリティ」の分野を、また、府民の暮らしや産業に関しては、地域交通の利便性の向上を目指す「モビリティ」のほか、「農林水産業」「防災」「行政」の分野を掲げ、この6つの分野を推進モデルとして取り組んできました。

スマート社会の実現に向けた取組の成果と施策展開については、具体的な事例では、農林水産分野では、ドローン等を活用した実証実験により、水稻栽培で約30%の作業時間削減効果が判明し、それを受け、府独自の補助制度の対象に加え、設備の導入を支援しています。また防災分野では、「水位・氾濫予測システム」の開発を京都大学と共同で進め、今後、水位等の予測情報の精度や実用性を検証の上、早期の避難情報発信に活用できるよう、6月1日から市町村及び気象台に予測情報の配信を開始しました。特に、行政分野では、キャッシュレス決済対応の電子申請システムの整備に加え、今年からはパスポートの電子申請にも対応するなど、デジタル技術の活用により、府民の利便性向上を図ってきました。さらに、昨年度から、スマートウォッチを活用した健康関連の実証実験など、府民の日常生活により身近なテーマの取組も進めています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、デジタル技術によるテレワークやリモート会議という新たな働き方が普及した一方で、府民参加型の実証実験などが十分に進まなかった面もあります。また、ChatGPTなどの生成AIの登場など、技術トレンドの変化への柔軟な対応も今後の検討課題であると考えています。

今後とも、様々な取組を分析し、その成果を横展開とともに、生産性の向上や、暮らしの中での利便性や安心安全などについて、府民の皆様がデジタル技術の恩恵を感じていただけるよう、努めます。

私はこう思う

今から30年近く前にインターネット(www)の実証実験がヨーロッパで行われ、日本からアクセスし参加したことがあります。電話回線で接続してHPを閲覧しましたが、1画面を表示するのになんと1分ほど掛っていました。多くの人が「使い物にならない」という中、私の上司は「ハードウェアは日々進歩する、考え方大事なんだ」と言っていました。今は、どうでしょうか。当時からは考えられないくらい、多くの方がスマートを使い、インターネットから多くの情報を得ています。各産業においてデジタル化の推進は、重要課題だと思います。ただデジタル化は、目的を達成するための一手段であって目的ではありません。

来年度からの計画においては、目的を明確にし、手段を柔軟に展開する計画を立てる必要があるでしょう。府民にデジタル化の恩恵をもたらすために、経験を活かして次期計画策定に提言していきます。



2 ICTを利用した教育による、論理的思考力と協働的思考力を育む学習の効率化について

質問 北川 (1)これまでの授業は、詰め込み授業が大半であったが、AIやICTの導入により自律を促す授業への転換が可能となると考える。例えば、グループ討論や調査研究型の授業等を多く取り入れ、教育の目的を「自律できる子どもの育成」にシフトすべきと考えるが、AIやICTを活用した今後の教育のあり方をどのように考えているのか。

(2)ICT環境が充実してきたことで、旧態以前の学習方法を大きく転換する良い機会と考えるが、今後、AIやICTを活用した授業をどのように展開していくのか。

回答 教育長 知識を教えることに重点を置いた授業から思考力や主体的に学ぼうとする態度を育む授業への転換を実現するためには、これまでの教育の実践とICTを最適に組み合わせていくことが必要であり、ツールとしてのICTの効果的な活用が重要になるとっています。こうした中で、各学校においては、1人1台端末環境が整い、日々の授業でのICT活用が進められるとともに、AIドリルを活用した、児童生徒の理解度に応じた学習指導についても、実践が始まっています。これからは、単にICTの積極的な活用を促すだけではなく、ICTを活用し、個々の学習環境や進度に合わせた「個別最適な学び」と、グループで意見を交換し自分の考えを構築する「協働的な学び」を充実させるといった、効果的な活用の段階への発展が必要と考えています。そのためには、児童生徒が学ぶことのおもしろさを感じ、さらに学ぼうとする意欲を引き出すことができる授業への改善が重要です。例えば、自律的・自発的な学びを促す課題解決型の学習においては、情報収集や分析を行う場面でのICT活用が非常に有効となります。府教育委員会といたしましては、今後、AIを含むICTを全ての教員が効果的に活用できるよう、教員研修の充実に加え、京都府デジタル学習支援センターを中心として、ICTを活用した授業実践例の紹介やコンテンツの作成などを通じ、授業改善の取組を進めています。

私はこう思う

私は、教育において「筋道を立てて物事を考え、構築する論理的思考力と、他の人の考えを協働して、さらに発展させ良い考え方へと再構築していく力の両方を育む学習が必要」と考えていました。それを効果的に行なうができるのがICT、AIを使った授業だと思っています。これまでのデジタル技術の経験を活かして、多くの人と議論を重ねながら効果的な教育環境を整えて行きたいと思っています。

3 信号機のない横断歩道での歩行者横断における車の停止率について

質問 北川 日本自動車連盟(以下、JAF)が昨年実施した調査によると、本府は信号機のない横断歩道での歩行者横断における車の停止率が全国45位となっている。信号機のない横断歩道に関する道路交通法の解釈が複雑であり、本調査の統計方法の精度を上げる必要はあるが、この結果をどのように捉え、今後、停止率を上げ、歩行者の安全を確保するためにどのような対策を講じていくのか。

回答 警察本部長 日本自動車連盟(JAF)による信号機のない横断歩道における車両の停止率実態調査につきましては承知しています。

府警察としては、その結果にかかわりなく、これまでからも、横断歩行者等妨害等違反の交通指導取締りを初めとして、横断歩道における交通安全対策について、重要課題として取り組んでいるところです。

具体的には、歩行者には、運転者とのコミュニケーションを図る「合図横断」に関する交通安全教育、運転者には、横断歩道における歩行者優先義務の遵守はもとより、歩行者を保護し、他の運転者の模範となる「はんなり運転」を運輸関係団体と連携して推奨するなど、横断歩行者の保護の徹底について周知する広報啓発活動を行っているところです。

また、一つの試みであり、今後の検証も必要ではありますが、大学生による自由な発想を交通安全対策に反映する施策「ポリス&カレッジ」で提案された「トリックアートによる横断歩道の立体化」による、運転者に注意を促すような横断歩道を取り入れるなど、市町村などの関係機関と連携した取組も行っているところです。

しかしながら、横断歩道上の交通事故が未だに発生している状況から、横断歩道における歩行者優先意識が定着しているとは言えず、更なる取組の強化が必要と認識しています。

引き続き、交通指導取締りの強化、交通安全教育、広報啓発、関係機関と連携した道路交通環境の整備等により、自動車と比較して弱い立場にある歩行者等の安全確保を重視する「人優先」の交通安全思想が定着するよう様々な取組を行います。

私はこう思う

多くの方から、横断歩道に信号機を付けてほしいと要望を受けますが、様々な事情からすべての横断歩道に信号機をつけることは大変難しいです。信号の無い横断歩道での停車率向上は、運転手の意識の向上はもとより、横断歩道を認識しやすくするトリックアートなど視覚に訴える方法も効果が期待できるでしょう。限られた財源の中で、自由な発想を交通安全対策に反映して、横断する全ての人、特に子ども達の安全を守れるように、京都府警と共に考えて行きたいと思います。